

2021年度(公社)日本助産師会  
中国・四国地区助産師研修会抄録集

# 母と子をつなぐ助産師

## — 心と知恵と技 —



会期： 2021年 10月 9日(土) ZOOMによるオンライン研修  
10月11日(月)～24日(日) オンデマンド配信

会場： WEB会場

主催： (公社)日本助産師会 (一社)香川県助産師会

# 目次

ごあいさつ -----	1
(一社) 香川県助産師会 会長 宮本 政子	
プログラム -----	2
2021 年度地区研修会講演にあたって -----	3
(公社) 日本助産師会 会長 島田 真理恵	
講演「助産師が起業する ～ぼっこ助産院開設 15 年を迎えて～」 -----	5
講師：ぼっこ助産院 真鍋 由紀子	
三部会集会 -----	7
講演「病院及び地域助産師による母乳育児支援 ～妊娠から卒乳まで、母と子を支える支援を考える～」 -----	8
講師：四国こどもとおとなの医療センター 堀家 王代 助産院ゆるり 鈴木 佳奈子	
講演「不妊・不育の悩みを持つ女性の支援」 -----	10
講師：香川大学医学部 教授 塩田 敦子	
講演「新生児のフィジカルアセスメント」 -----	12
講師：香川大学医学部 助教 小谷野 耕佑	
講演「男性の性機能 ～周産期に絡めて～」 -----	14
講師：松木泌尿器科医院 院長 松木 孝和	
講演「日本の周産期医療の現状と地域における周産期医療体制の問題点 一さぬき市民病院におけるセミオープンシステムおよび院内助産院への取り組み一」 ---	16
講師：香川大学医学部 教授 金西 賢治	

## ごあいさつ

一般社団法人 香川県助産師会  
会長 宮本 政子

厳しかった夏も過ぎ、秋の訪れを感じる今日この頃です。日本助産師会会員および中国四国地区各県の助産師の皆様には「令和 3 年度 中国・四国地区研修会」にご参加いただきありがとうございました。心より歓迎申し上げます。

また、ご参加いただいた助産師の皆様はコロナ禍で大変な医療現場で日夜母と子の幸せを願いご活躍いただき心より御礼申し上げます。

さて、令和 3 年度の中国・四国地区研修会をやっと開催できる運びとなりました。本来なら昨年開催の予定でしたが本年に順延となり、昨年の段階では令和 3 年の 10 月ならコロナ感染も落ち着いているかと考えて、会員の皆様には香川にお越しいただく予定で会場の準備や懇親会の準備も進めておりました。しかし現実には厳しく昨年より感染力の強いデルタ株が猛威をふるっており、出口の見えない状況です。

本来地区で研修会を開催する意義は、その地域での助産師の交流を深め、地区固有の健康問題についての意見交換や、固有の文化に触れ日ごろの疲れを癒すことで、問題や課題の解決に繋げる活動力を得ることではないかと考えております。オンライン上での交流には制約も多く、ご期待に添える研修会が開催できるか不安がいっぱいですが、少しでも意義のある研修会にしたいと考え準備してまいりました。

今回の研修会のメインテーマは「母と子をつなぐ助産師一心と知恵と技ー」としました。昨今子育て中の母親の育児不安は社会問題ともなっており、私たち助産師には母子の身体面・育児技術のみならず、様々な心理社会的背景をも考慮した援助が求められています。母子保健法の改正により産後ケア事業が推進されて、香川県でも県内すべての市町と産後ケア事業の委託契約を締結しておりますが、市町による運用の違いなどもあり様々な課題があります。部会集会では「産後ケアを推進しよう！」というテーマで話し合いたいと思います。さらに今回の研修会では、医学的側面の知識を助産師として母親に伝えていただきたいということで、CLoCMiP 申請にも活かせる内容の講演を企画しました。新生児のフィジカルアセスメントや不妊・不育症の問題、医療機関や助産所での母乳育児への取り組みについて IBCLC 認定講師からの講演、男性の性機能と周産期の問題、産科医が不在となった地域中核病院が大学病院と連携し院内助産のセミオープンシステムを構築した経緯、多機能型助産所の開設と運営についての講演など、今後の助産師の新しい活動の在り方に示唆が得られるのではないかと考えております。

どんどん個人が閉塞される社会のなかで、少しでも母子やそのご家族の安寧が得られることに繋がり、参加された皆様にとって有意義な研修会になりますよう祈念いたしております。

## 【プログラム】

テーマ:母と子をつなぐ助産師 一心と知恵と技一

10月9日(土) オンライン研修		10月11日(月)～10月24日(日) オンデマンド配信	
10:30	入室可 オリエンテーション	講演1 会長講演(50分) (公社)日本助産師会 会長 島田 真理恵	
10:50	開会宣言 (一社)香川県助産師会 会長 あいさつ 香川県子ども政策推進局 局長 あいさつ	講演2 10月9日のライブ講演Ⅰ 「助産師が起業する ～ぼっこ助産院 開設15年を迎えて～」 ぼっこ助産院 真鍋 由紀子 CLoCMiP®レベルⅢ認証選択研修	
11:00	ライブ講演Ⅰ 「助産師が起業する ～ぼっこ助産院 開設15年を迎えて～」 ぼっこ助産院 真鍋 由紀子 CLoCMiP®レベルⅢ認証選択研修	講演3 10月9日のライブ講演Ⅱ 「病院及び地域助産師による母乳育児支援」 助産院ゆるり 鈴木 佳奈子 四国こどもとおとなの医療センター 堀家 王代 CLoCMiP®レベルⅢ認証選択研修	
12:40	三部会集会 開会 「産後ケアを推進しよう！」  1.各部会代表者より部会報告 (1)助産所部会 (2)保健指導部会 (3)勤務部会	講演4 「不妊・不育の悩みを持つ女性の支援」 香川大学医学部 教授 塩田 敦子(90分) CLoCMiP®レベルⅢ認証必須研修 不妊・不育の悩みを持つ女性の支援 認証番号 21_WOW02_02_00646	
13:10	2.香川県から情報提供 (1)施設から (2)地域から (3)助産所から	講演5 「新生児のフィジカルアセスメント」 香川大学医学部 助教 小谷野 耕佑(90分) CLoCMiP®レベルⅢ認証必須研修 新生児のフィジカルアセスメント 認証番号 21_C07C07_02_00636	
13:25	3.全体討議 まとめ	講演6 「男性の性機能 ～周産期に絡めて～」 松木泌尿器科医院 院長 松木 孝和(60分) CLoCMiP®レベルⅢ認証選択研修	
14:00	閉会	講演7 「日本の周産期医療の現状と地域における周産期 医療体制の問題点 一さぬき市民病院における セミオープンシステムおよび院内助産への組み み～」 香川大学医学部 教授 金西 賢治(90分) CLoCMiP®レベルⅢ認証選択研修	
14:20	ライブ講演Ⅱ 「病院及び地域助産師による母乳育児 支援」 助産院ゆるり 鈴木 佳奈子 四国こどもとおとなの医療センター 堀家 王代 CLoCMiP®レベルⅢ認証選択研修		
15:50			

# 2021 年度地区研修会講演にあたって

公益社団法人 日本助産師会

会長 島田 真理恵

日本助産師会会員の皆さまにおかれましては、先の見えない不安な状況の中、女性とその家族への支援を継続されており、その専門職者としての誠実な姿勢に改めまして敬意を表します。

本会は 2021 年度総会で役員改選がなされ、新たな体制での事業運営を開始しております。皆さまには、新体制についてご報告するとともに、以下のことをお伝えしたいと考えています。

## 1. 日本助産師会中期ビジョン 2025 のご紹介

すでにご存じの方も多いかと存じますが、本会は平成 27 年度総会で発表した「日本助産師会ビジョン 2025」の実現を目指すために中期ビジョン 2025（2021～2025 の活動目標）を提示しました。

専門職能団体として発展するための 4 つの推進事項（A. 他職種連携・地域連携の推進、B. 優れた人材の育成、C. 国際協力の推進、D. 安定した経営・組織強化・運営の基盤整備）を意識した組織基盤整備に努力するとともに、助産師のケアの質向上（Ⅰ 妊娠出産ケアの充実、Ⅱ 産前・産後育児ケアの充実、Ⅲ 女性特有ケアの充実）を図っていきたいと思っています。

日本助産師会中期ビジョン 2025 は、これから 5 年間の本会の活動目標および活動指針であり、会員の皆さまのご理解とご協力をいただき、これらを実現していくことが重要と考えています。このため今一度、皆さまとその内容を確認していきたいと思っています。

## 2. 本年度の重点目標と現在の活動報告

2021 年度の重点目標について、その内容をお話するとともに、設置した目標に基づいて現在、どのような活動をしているかをご報告いたします。総会后にどのような要望活動を実施したかなどを詳しくお話できればと考えています。

## 3. 支援対象を周産期母子に特化した訪問看護ステーション活動について

本年度総会の際に、本会のとりこえ助産院が訪問看護ステーションを併設し、事業展開をするにあたっては、定款を変更することが必要であると東京都から指導を受けたため、定款変更に関する議題を提出いたしました。

この件につきましては、皆さまが議題を十分検討するために必要な資料の提示や私の説明が不十分であったことをお詫びいたします。本当に申し訳ございませんでした。結論から申

申し上げますと、総会後に国に相談したところ、定款変更は必要がないことがわかりました。

本会は産婦の力を引き出す自然な出産をさらに推進していきたいと思っています。そして、本会の活動理念である「すべての女性に助産師のケアを」の実現を図ること、支援対象者のニーズに応えることも重要であると思っています。このため、議題提出の理由や今後の予定などについて、ご説明させていただきます。

# 助産師が起業する

～ぼっこ助産院開設 15 年を迎えて～

ぼっこ助産院 真鍋 由紀子

はじめに

自治体病院の看護部長を定年退職し、想いを同じくする助産師仲間と立ち上げたいのちの応援舎の大黒柱であるぼっこ助産院を開設して 15 年、多くのご家族の方々といのちの誕生を見守ってきました。多くの方たちに「私の助産院」と認識していただき、折に触れ訪ねてきてくださるご家族を迎え入れる幸せな時を過ごすことができ、まさに助産師冥利に尽きる経験をさせて貰っている今、開設時の出来事を振り返ってみたいと思います。

## 1. 起業に際しての 4 つのポイント

- ① 人 想いを発信しその想いを受け止め同じくする仲間を多く集める
- ② 物 想いを同じくする人からのいただき物を使わせていただく
- ③ 金 想いを同じくする人たちからの融資を受ける
- ④ 情報 最新情報の入手

## 2. ポイントを融合させ動かす

想いを口に出し伝えることで相手に理解してもらえ、力を貸してもらうことができる。背中を押してくれたのが県内の助産師仲間と看護学校の同級生たちでした。情報・金・物すべてのことがこの人たちを中心に集まってきて大きな力となったことで動かすことができました。

## 3. 運営について

助産院を運営していくには嘱託医・嘱託医療機関を持つことが医療法で義務づけられています。開設にあたり嘱託医療機関の役割から考えて 24 時間母と児の安全性の確保をするには総合周産期医療センターしかないと判断し、当時の香川大学医学部附属病院総合周産期医療センター長に想いをもち込んだところ「正常分娩は助産師がしたらええじゃないか」と英断を下して下さり今に至っております。この人と人との信頼関係を大切につないでいるところです。

連携医療機関への搬送時、適切な時期に適切な医療が受けられることを大切にするには、助産師の適切な判断が求められるので、助産師たちはそれぞれに力をつけるべく日々努力を続けています。

## 4. 終わりに

人と人のつながりを財産としたぼっこ助産院の灯を消さないよう次世代につないでいくためには、多くの関係団体各位の皆様をはじめ多くの方たちのご支援・ご指導・ご協力をいただきながら守っていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## 真鍋 由紀子(まなべ ゆきこ)

### ぼっこ助産院

#### (学歴・職歴)

- 1965年3月 京都大学医学部附属助産婦学校卒業
  - 1965年4月 高松赤十字病院産婦人科入職
  - 1974年9月 大阪大学医学部附属病院産科入職
  - 1976年10月 さぬき市民病院入職
  - 2006年2月 いのちの応援舎設立
- 現在に至る

#### (役員歴)

- 1980年5月 一社)香川県看護協会 助産師職能理事
- 2010年5月 一社)日本助産師会香川県支部 副支部長
- 2012年5月 一社)香川県助産師会 会長
- 2014年4月 香川母性衛生学会 副会長
- 2018年5月 一社)香川県助産師会 副会長

#### (委員歴)

- 2012年6月 香川県周産期医療協議会 委員
- 2013年7月 香川県児童・青少年健全育成事業団 委員
- 香川県助産師出向システム推進会議 委員

## 三部会集会

三部会集会は例年部会ごとにお集まりいただき、部会特有の問題について討議することが多いのですが、オンライン開催となりグループ討議も難しいので3部会合同で開催することになりました。最初に中国四国地区ご担当の部会長様より日本助産師会における各部会の取り組みを報告していただき、その後共通テーマ「産後ケアを推進しよう！」ということで全体討議を行います。

このテーマを選んだのはコロナ禍の育児中のお母さま方の不安が大きく、国においても産後ケア事業を推進しておりますが、運用には様々な問題があります。助産師がその力を発揮し母子の心身の健康に繋がるための方法など参加者の皆様のご意見をいただき今後の活動にいかしたいと考えております。

短い時間ですが活発な意見交換ができればと考えております。

12時40分～

部会報告

助産所部会	広島県	田中敬子 様
保健指導部会	愛媛県	原田恵美 様
勤務部会	島根県	伊藤めぐみ様

13時10分～14時

香川県の情報提供と全体討議

ぼっこ助産院	高田恵子 様
三木町役場	横井まゆみ様
さぬき市民病院	上條美佳 様

# 病院および地域助産師による母乳育児支援

～妊娠から卒乳まで、母と子を支える支援を考える～

国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター 堀家 王代  
助産院ゆるり／香川県助産師会 鈴木 佳奈子

四国こどもとおとなの医療センターは、香川県善通寺市に位置する総合周産期母子医療センターで、高度周産期医療を提供しながら原則母子同室による母乳育児支援を行っています。また、助産院ゆるりは、香川県丸亀市で 2016 年に保健指導開業した助産院で、妊娠期～卒乳までの母乳育児支援に取り組んでいます。

UNICEF/WHO は生後 6 か月間は母乳だけで、その後は適切な補完食を与えながら 2 歳かそれ以降まで母乳育児を継続することを推奨<sup>1)</sup>しています。私たち助産師にとって母乳育児の利点は言うまでもない共通認識であり、またすでに知られている通り、母乳育児をスムーズに軌道に乗せるには、出産施設での支援がカギとなります。そして退院後は子どもの成長・発達に合わせ、母乳育児が子育ての基盤としてあり続けるために、母子を継続的に支えるサポートが必要となります。

助産師が活動するフィールドが多様化する中で、出産施設と地域それぞれの立場で情報共有することや、知識とスキルを更新して支援を行っていくことの役割の重さは変わりません。母親の気持ちを受け止め、共感すること。個々の状況に合った情報を提供し、母親がわが子の栄養について自ら選択した方法で育児を続けていくのを支えること。“指導による行動変容”とは異なる、母親の能動的で自律した“自分らしい子育て”を助産師としてどう支えるのかを、いつも考えながら活動する毎日です。

今回は、出産施設と地域それぞれの立場から、母乳育児支援の取り組みについて事例を交えつつ現状と課題を共有したいと考えています。

## [参考文献]

- 1) UNICEF/WHO (著) (2003), 日本ラクテーション・コンサルタント協会 (訳) (2004). 乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略.
- 2) UNICEF/WHO (著), BFHI2009 翻訳編集委員会 (訳) (2009), 赤ちゃんとお母さんに優しい母乳育児支援ガイドベーシック・コース「母乳育児成功のための 10 カ条」の実践, 医学書院.
- 3) 日本ラクテーション・コンサルタント協会 (編) (2007). 母乳育児支援スタンダード第 2 版, 医学書院.

堀家 王代 (ほりけ きみよ)

四国こどもとおとなの医療センター 助産師 IBCLC

(学歴・職歴)

1987年 徳島大学医学部附属看護学校卒業

1988年 徳島大学医学部附属助産師学校卒業

2019年 香川県立保健医療大学院修士課程修了

現在は、四国こどもとおとなの医療センターにて勤務

(資格)

2012年 国際ラクテーション・コンサルタント認定

鈴木 佳奈子 (すずき かなこ)

助産院ゆるり 看護師 助産師 IBCLC

(学歴・職歴)

1998年 北海道大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻修了

1998年 北海道大学医学部附属病院 周産母子センター勤務

2002年 国立成育医療センター 産科病棟勤務

(2005年～国立看護大学校 臨床教員併任)

2008年 香川県助産師会に所属、地域での訪問活動開始

2010年 香川県善通寺市子ども課嘱託(常勤)勤務(2015年より非常勤勤務)

2016年 助産院ゆるり開業(保健指導開業)

(資格)

2007年 国際認定ラクテーション・コンサルタントに初回認定

# 不妊・不育の悩みを持つ女性の支援について

香川大学医学部医学科健康科学

大学院医学系研究科看護医科学

教授 塩田 敦子

いのちを縦にも横にも繋ぐことのできる女性ですが、結婚しなくてはならない、出産しなくてはならない、子育てをしなくてはならない、ことは全くありません。性分化疾患を持つ方もいますし、LGBTの方についても最近では理解がすすみ、現代社会では多様な生き方が受け容れられつつあります。

それでも「育む性」を生かして、子を産み、育てたい、家族をつくりたいという気持ちを持つのは十分理解できます。そこで少しつまづいてしまった女性たちの希望の光が生殖医療です。

2018年にART（Artificial Reproductive Technology：生殖補助医療）の恩恵を受けて生まれた児は56,979人。この年の出生児数918,400人から考えると実に新生児の16人に1人ですが、治療しても生児を得られる率は30代前半までで20%、後半から40歳で10%前後ですから、この10倍近くの女性が治療を受けていらっしゃることになります。

不妊治療にまつわる悩みは多岐にわたります。

夫婦間の治療に対する温度差、仕事との両立、高額な医療費、身体への負担。どうして私だけ、という焦りとコンプレックス、毎月の喪失体験、周りになかなか相談できず、友人の妊娠を喜べない自分に対する嫌悪感。長く妊娠できないと、私の卵は大切に扱われているのか、病院を変えたほうがよいのかも、という不信感も生まれます。そして、いつまで続けたらよいのか、という最も答えの見つけにくい問い・・・。

それぞれの背景、歴史があり、気質・性格もありますから、サポートの方法もひとつではありません。そのためには不妊症の基礎知識から最新の検査・治療の実際についても知っておく必要があります。

妊娠はしても流産・死産をくりかえし生児が得られない不育症も問題となっています。不育症の女性は、流死産という辛い体験から、不安・抑うつ状態になることがあります。ここでは「グリーフケア」が必要です。そして妊娠することが怖くなり、妊娠すればその不安はさらに強くなります。不育症の原因がわかればそれに対する治療をすることになりますが、遺伝カウンセリング、着床前診断など難しい問題に直面することもあります。

それでも不育症の60%以上は原因不明であり、治療法の一つに「テnderラビングケア」があります。“優しく、愛情を持って接し、いたわる”という単純な治療法ながら、妊娠中あるいは妊娠前から「テnderラビングケア」を行うことで生児獲得率が上昇することが、海外でも国内でも報告されています。

不妊症、不育症の知識と最新治療の実際、生殖医療に伴う生命倫理の問題なども踏まえたうえで、不妊症・不育症に悩む女性、家族のサポートについていっしょに考えてみたいと思います。

塩田 敦子（しおた あつこ）

香川大学医学部医学科健康科学 大学院医学系研究科看護医科学 教授

**（学歴・職歴）**

1987年 3月 東京医科歯科大学医学部医学科卒業

東京医科歯科大学医学部附属病院産婦人科にて2年間研修した後、結婚にともない

1989年 5月 香川医科大学医学部附属病院 産婦人科 助手から講師

2007年 10月 香川大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター 准教授

2012年 10月 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 大学院保健医療学研究科  
教授

2021年 4月 香川大学医学部医学科健康科学 大学院医学系研究科看護医科学  
教授

2006年 5月からは香川大学医学部附属病院女性外来診療部医師併任

**（資格・専門医など）**

医学博士

日本産科婦人科学会専門医

日本東洋医学会漢方専門医・指導医

日本女性心身医学会専門医

日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医

日本臨床細胞学会細胞診専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本医師会認定産業医

# 新生児のフィジカルアセスメント

香川大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター

助教 小谷野 耕佑

赤ちゃんは出生に際し、お母さんの胎内から私たちの生きる胎外へ劇的な環境変化を様々な生理機能を起動することで乗り越えます。その過程は胎外環境への「適応」と表現されます。もし、適応に何らかの問題が生じた場合は、その問題を把握し、適した治療を直ちに選択、実施しなければ、生まれたばかりの赤ちゃんの命が失われることになります。

私たちは生まれてくる赤ちゃんの為に、適応がどのように起きるのかを理解していなければいけません。適応について学ぶ際には、①呼吸の適応、②循環の適応、③代謝の適応に分けて見ていく事が有用です。そしてこれらの知識を持った上で、実際の赤ちゃんの状態（症状、背景、検査所見等）を評価（フィジカルアセスメント）し、適切な判断をできるように準備をする事が、私たち周産期医療に携わる者の使命です。

今回は赤ちゃんの出生時の適応生理学を上述の様に区分し、お話しさせていただきます。そして、適応生理学を背景に、代表的な新生児疾患がどのように生じているのかについて概説します。

また、生後4か月までの赤ちゃんのお母さんから寄せられる相談について代表例を3つ挙げ、それぞれについての考え方と説明の仕方を提示させていただきます。

日頃からお世話になっている助産師の皆様に、少しでもお役に立てるのであればうれしく思います。

小谷野 耕佑 (こやの こうすけ)

香川大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 助教  
静岡県浜松市出身

**(学歴・職歴)**

2004年 香川大学医学部卒業  
2006年 香川大学小児科医員  
2008年 徳島県つるぎ町立半田病院小児科医員  
2010年 香川大学医学部附属病院助教 現職

**(資格)**

日本小児科学会 小児科専門医・指導医  
日本周産期・新生児医学会 周産期専門医・指導医  
日本臨床薬理学会専門医  
新生児蘇生普及事業 (NCPR) 香川トレーニングサイト サイト長

# 男性の性機能

～周産期に絡めて～

松木泌尿器科医院

院長 松木孝和

男性の性機能に関連する問題は高齢者の問題と捉えられやすいですが、実は助産師の皆さんが多くかかわる周産期の性の問題と関連しています。

今回の講演では前半は泌尿器科専門医として開業医の立場から、日常の診療場面における男性の性機能に関連する疾患の病態や治療について事例の紹介も含めてお話しします。特に周産期と関連のある心因性の勃起障害や性感染症についてお話しします。

後半では助産所で長く業務に従事している助産師さんの体験から、周産期の男性の性機能に関連する疑問や、これからの助産師に必要な対応について質疑応答の形でお話ししたいと思います。

松木 孝和 (まつき たかかず)

松木泌尿器科医院 院長

**(学歴・職歴)**

1993年3月 川崎医科大学 卒業  
1997年4月 川崎医科大学 泌尿器科 助手  
1998年4月 笠岡第一病院 泌尿器科 医長  
2000年4月 川崎医科大学 泌尿器科 助手  
2002年6月 松木泌尿器科医院 開業  
2007年4月 香川大学医学部 非常勤講師 兼任  
2010年4月 香川大学医学部 臨床准教授 兼任  
2014年4月 香川大学医学部 臨床教授 兼任

**(資格・所属学会など)**

日本泌尿器科学会認定泌尿器科専門医  
日本性機能学会認定専門医  
日本性感症学会認定医  
日本泌尿器科学会  
日本癌治療学会  
日本癌学会  
日本性機能学会  
日本排尿機能学会  
日本老年泌尿器科学会  
日本性感症学会  
日本臨床泌尿器科医会  
日本プライマリケア学会

# 日本の周産期医療の現状と 地域における周産期医療体制の問題点

## —さぬき市民病院産科におけるセミオープンシステム

### および院内助産への取り組み—

香川大学医学部母子科学講座周産期学婦人科学

教授 金西 賢治

#### 講演内容

1. 日本の周産期医療の現状
2. 香川県の周産期医療の現状
3. 香川大学の周産期医療について  
(帝王切開率低減への努力)
4. さぬき市民病院の分娩休止に対し香川大学医学部附属病院とのセミオープンシステムの導入やその後院内助産開設までの経緯

近年の周産期医療は妊産婦の高齢化や少子化などの社会構造の変化、医師不足といった医療供給体制の問題などより複雑な課題を抱えているといえます。

2018年12月の成育基本法の成立に伴い、国や地方の公共団体と医療関係者が協力し妊産婦、出生児の継続的な支援を社会全体で考えていく体制の強化が期待されています。しかしながら、我が国の2020年の出生数は87万2,683人と過去最少を更新する見通しで、少子化はますます加速しています。少子化と同様に、出産後の育児環境の悪化や就労環境でのストレスの増加による産褥うつ病、児童虐待や発達障害などの増加も大きな社会問題となっているといえます。これまでは我が国の分娩の多くは、小規模な分娩施設で取り扱われていましたが、産科医不足により医療供給体制の問題から地域ごとの集約化、重点化が促進されてきました。過疎地や離島の妊産婦だけではなく、小規模な市町村においても地域での分娩の取り扱いがなくなり、地域で産み育てることが当たり前でなくなる現状が妊産婦の負担をますます大きなものにしていきます。分娩に際しても合併症妊娠の増加などから上昇する帝王切開率や社会で孤立した母親の増加は育児環境を悪化させ産褥うつ病の発症や児童虐待の増加にも関連していると考えられています。

地域医療の中核をなす市民病院などの総合病院においても産科医不足から分娩を休止する事態も発生しています。これらの問題に対し、助産師達への期待はこれまで以上に大きなものになってきています。2019年8月から出産対応を休止していたさぬき市民病院が、2021年1月にも出産対応を再開することになった経緯も、地域での分娩、育児支援も含めた助産師としての役割を継続したいという強い希望があったからこそ実現できたものと考えます。現在の日本の周産期医療体制、香川県での周産期医療の現状と香川大学での取り組みについて講演し、最後にさぬき市民病院の分娩休止に対しセミオープンシステムの導入し、最終的に院内助産開設までの経緯についても報告いたします。

## 金西 賢治 (かねにし けんじ)

香川大学医学部母子科学講座周産期学婦人科学 教授

### (学歴・職歴)

1993年3月 香川医科大学医学部医学科 卒業  
1993年5月 香川医科大学医学部附属病院 医員  
1996年4月 香川医科大学医学部大学院医学系研究科 入学  
2001年3月 同 修了、博士号取得  
2001年4月 香川大学医学部附属病院 医員 (産科婦人科)  
2001年10月 同 助手 (産科婦人科)  
2004年1月～4月 がん研究所病理部  
2005年12月 香川大学医学部学内 講師 (周産期学婦人科学)  
2011年4月 香川大学医学部附属病院 講師 (周産期科女性診療科)  
2012年10月 香川大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 准教授  
2019年4月 香川大学医学部母子科学講座周産期学婦人科学 教授

現在に至る

### (資格)

日本産科婦人科学会 専門医・指導医  
日本超音波医学会 専門医・指導医  
日本周産期新生児医学会 専門医・指導医 (母体・胎児)  
日本がん治療認定医機構 認定医

### (役職)

日本産科婦人科学会 代議員  
日本超音波医学会 代議員  
日本婦人科腫瘍学会 代議員  
日本脳神経超音波学会 評議員  
香川産科婦人科学会 会長  
新胎児学研究会 世話人  
中国四国生殖医学会 理事  
四国産婦人科内視鏡手術研究会 世話人

### (専門分野)

周産期分野  
超音波診断

中国・四国地区助産師研修会

2021年度 準備委員

(50音順・敬称略)

委員長

真鍋 由紀子(ぼっこ助産院)

委員

宮本 政子(一般社団法人香川県助産師会会長)

石原 留美                      佐々木 三千代

関亦 頼子                      多田 鈴子

前川 里美                      三好 順子

藤川 シズ子

講師を引き受けてくださいました先生方、誠にありがとうございました。  
本研修会にご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

